

令和8年度 ときわ会 活動の重点と重点達成の方策

現代社会は、少子高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AIといったデジタル技術の発展等、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。このような情勢下、家庭や地域の変化と相まって、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、課題が多様化・複雑化している。

このように社会や環境が大きく変化する中、教育の重要性は一層高まっている。自らの未来を切り拓き、力強く生き抜く子どもたちを育成するために、教育においては、社会の変化に柔軟に対応し、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手を育むことが求められている。

それ故、私たちときわ会及び会員一人一人は、これからの教育の方向性をしっかりと受け止め、新たな時代にふさわしい教育の在り方の構築に努めなければならない。

ときわ会では、令和5年度に創設150周年記念事業に取り組み、「『志』の継承 未来へ」を掲げ、ときわ会の原点と未来への方向性を全会員で確認した。そして、新たな10年のスタートとして、「つながり」と「主体性」をキーワードに、会員のニーズに応じた研修スタイルの構築等に取り組んできた。

改めて確認したい。創設150周年事業で確認されたときわ会の「志」とは何か。それは、「本県教育の充実・発展」に寄与することである。この「志」を組織の指針としながら、会員一人一人が自らの「志」を再確認することを大切にしたい。ときわ会の「志」は私たちが目指す方向性であり、そこに向かう原動力は、個の「志」だからである。「教職員に採用された時の思い」「子どもと最初に出会った日の感動」「ときわ会に入会した時の期待感」「憧れの授業を見出した時の高揚感」等、自分の胸の内に秘めた、言わば、原石となる「志」を再確認してほしい。組織としての「志」と個の「志」を重ねることで、ときわ会としての役割を果たしていく。

そこで、令和8年度は、会員一人一人が、自らの原石となる「志」は、現在、どのような輝きを放ち、今後、どのように磨き上げていくのかを意識し、高みを目指して主体性をもって研修に参加・参画することを期待したい。

一方、ときわ会としては、個の「志」の実現に向け研修の充実を図るとともに、会員を温かく支える組織づくりを推進する。本部においては、「志」の実現に向け、新たな研修会等の創造や再構築に取り組む。その手がかりは、令和6年度の特命委員会の答申にある。次世代研修推進委員会において、この答申を精査し、本県教育の現状と課題を明らかにするとともに、その改善のために新たな研修を構想し、試行する。このほか、常設委員会等においても「本県教育の充実・発展」の視点から既存の事業を見直し、その実現に向けて研修等の再構築を行う。さらに、「本県教育の充実・発展」という「志」の実現のために、他の研修団体や関係機関との交流・連携を一層進めていく。

各支部・年度においては、「志」の再確認、「本県教育の充実・発展」への寄与、会員を温かく支える組織づくりを意識し、主体性を活かした取組が推進されることを期待する。

令和8年度のときわ会は、多様性を尊重しつつ、全会員が「志」の実現に向けて、ともに歩む凝集性を大切にしたい。そこで、基本方針を「『志』を再確認し、『志』の実現に向け、主体性を活かした取組を推進すること」として、各活動を着実に実践していく。

活動の重点と重点達成の方策

重点1 会員が自らの志に基づいて、資質・能力を高めていくことができるよう、ときわ会の多様な人材やつながりを活用し、ニーズに応じた魅力ある研修を推進する。

- (1) 多様な子どもたちの深い学びを実現し、これからの社会で求められる力を着実に育成する授業力を高める研修を推進する。
- (2) 不登校やいじめ等の生徒指導上の課題や学級経営、教育課程編成等の学校が直面している課題を解決するための資質・能力を高める研修を推進する。
- (3) 探究的な学びや深い学びを支えるICTの効果的な活用に関する研修を推進する。
- (4) 環境の整備と合理的配慮の提供を両輪として進める特別支援教育の研修を推進する。
- (5) 特設委員会を設置し、会員のニーズ及び本県教育の充実・発展に寄与する新たな研修を試行する。

重点2 会員相互がつながりながら、自己を高めていくことができるよう、各種会合の内容と方法を工夫したり、会員のアイデアを活かしたりして、組織の活性化を図る。

- (1) 地域や職種、校種、世代を越えたつながりが一層深まるように、各種会合のもち方について、内容や形式、時間帯等を交流・親睦の視点から工夫する。
- (2) 支部長及び校園長会員が、一人一人の会員の志、現状や願いを丁寧に把握し、会員が主体的に自己を高めていくことができるよう支援するとともに、各組織で活躍できる場を整える。
- (3) 教育研究発表会、ときわスーパーティーチャー、ときわ教育賞・ときわ教育奨励賞、各種論文の執筆等への組織的・計画的な支援を通して、各地域や分野をリードする人材を育成するとともに効果的な活躍の場を整える。
- (4) 若手会員や少数職種・校種の会員、自立会員等がつながりを実感し、学びを深めることができるような支援を行い、学びやすい環境や活躍できる場を整える。

重点3 ときわ会の理念や活動について、会員が一層理解するとともに、社会への認知を広げていくことができるよう、活動の情報発信を進め、会員内外のつながりを強固にする。

- (1) 「エデュコにいがた」やSNS、ときわ会ホームページ等を活用して情報を発信し、ときわ会の理念や活動について、会員の一層の理解と社会への認知を図る。
- (2) 研修会等において、他業種も含めた会員以外の人材が講師、情報提供者、発表者として参加する機会を設け、会員以外の人材との積極的な交流を推進するとともにその情報を広く発信する。
- (3) 行政機関、県内外の諸大学、教育関係諸機関、他の研修団体、公益財団法人新潟教育会等の団体との交流を深め、連携を推進する。
- (4) 研修におけるICTの有効活用、研修に関する情報共有、会員相互のつながり支援等のための効果的なICT活用やネットワーク構築について、検討を進める。